

学校改革プロジェクト委員会（研究推進）通信

平成 29 年 9 月 4 日

8月24日（木曜日）にふれあい創造館において、白鳥地域小中学校合同教科部会が行われ、本校から7名の教員が参加しました。本校以外の参加校は白鳥町内にある中学校1校と小学校7校で、助言者の先生方を含めると90名近い人数で行われました。本校に入学する白鳥中学校の生徒は55%前後で推移しており、その生徒が小学時代・中学時代にどのように学んできたかを知ることが、本校での学習指導をより効果的にするものと考えられます（コスト1に対する学習効果を最大にすることが多忙化の解消にもつながる可能性があります）。

全体会では白鳥小学校校長より「新しい方針が出ると、その方針にそった方法論に走ってしまいがち（アクティブラーニングを単なる活動を取り入れた授業とされている）」ということや、指導に意味を持たせて行くと効果が20%増すことを例に「指導の価値づけ」の必要性について話がされました。

その後、1時間の教科部会が行われました。終了時間になっても終了しない部会もあり、非常に活発なやりとりがされていました。教科部会では主に小・中学校で取り組まれている実践を交流しました。交流内容の一例を挙げると、小学校の実践として、小学1年生からペア活動を行って意見の交流をさせていることや、答えを導くまでの思考の流れをノートに記し、根拠だって説明するために文章を書く練習をする取り組みが紹介されました。また、中学校においては、課題解決型の授業を実施する中で、全国学力状況調査で「授業の内容が分かる」と回答しながらも、平均点が低いという状況から指導の改善を行い、生徒の教え合い活動の中で学習内容の定着を図るという取り組みがされていました。

教科部会後には小中高の連携の効果として、美濃教育事務所教育研修課より、下記のことが示されました。

(1)教科にこだわらない「学び方」の統一

発達段階で生徒に対する指導は変化していくにしても、どのように指導されてきたかを知っていることで、生徒にとっては校種が変わっても教師の指導が受け入れやすくなり、教育効果が上がることが期待できる。例：ノートづくり、挙手の方法、宿題の出し方

(2)教科特有の「学び方」の統一

小学校では振り返りを行っているが、中学校では行われていない。中学校では予習をさせているが、小学校ではさせていない状況。こういったことを統一させていくことで、生徒の学びやすさを確保することが期待できる。

(3)9年間（12年間）の学びの系統性の構築

小中高の教員が連携することで、12年間で子どもを育てていくという意識が高まる。この連携（仲）の良さは生徒にも伝わる。学習指導の連携が生徒指導や進路指導の連携にもつながることも期待できる。

また、多忙化による業務の精選がされる中で、教員の本分である授業改善は譲れない部分であるということでした。

（裏面には参加された先生の感想を記載します）



合同教科部会に参加して「なるほど!」と思ったこと

- ・合唱や音楽記号の学習は、教科書を使って教えるよりも、パソコンやプリントを使用し、問題をゲーム式にすることで、楽しく覚えられる。授業の工夫が大切だと感じた。
- ・中学校美術の授業にタブレットやパソコン等のICTの活用を多く取り入れていた。
- ・美術を教えるねらいと、家庭科を教えることのねらいの1つに共通点があることに気づいた。
- ・小学校、中学校それぞれの先生方が大変工夫されて、子どもたちが楽しく学べるように努力されているのに感心した。
- ・小中の先生も目の前の子どもをどう育てていくか、いろいろと試行錯誤してみえることがよく分かった。
- ・小1からペア授業をはじめ、小5からは考えの流れをノートに記す活動をしていた。
- ・小学校、中学校の先生のきめ細かい授業準備がとても参考になりました。

合同教科部会に参加をしたことで、本校の生徒への指導を変えていった方が良いと思うことは

- ・楽曲や物語の背景を正しく理解することも大切ですが、自ら感受できるように「考える時間」「コミュニケーションをとる時間」を確保したい。
- ・1時間ごとに生徒が何を学んだかを明らかにする必要がある。
- ・本校も授業改善を継続する必要があると思う。
- ・中学校までは訓練されてきたはずなのに、高校に来てからやらなくなる・できなくなることが増えてきていると感じました。
- ・中学校の先生方のほうが大学入試改革に強い関心を持っている。高等学校の教員も大学入試改革で問われてくる新しい力を理解した上で、授業改善を行っていく必要性を感じた。

参加した教科以外の先生とも共有したい情報はありますか。

- ・音楽以外の芸術の先生の授業参観やテスト内容の共有をしたい。
- ・中学校での学習内容、特に実習内容が分かると高等学校でダブって教えることをさけることができる。
- ・本校も授業改善を継続する必要があると感じた。
- ・白鳥地域の生徒の読解力が落ちている。読解力がないために国語以外の問題もできなくなっているのではないか。
- ・中学校は小学校の先生はどう指導しているの?と疑問を感じるし、小学校の先生は中学生になった教え子が問題行動を起こすと、中学校の指導はどうしているの?と感じる。大切なのは、この機会を通じて連携をすること。小学校から高校までのつながりができることが大切。

今後、多くの先生が参加しやすくするために、どのような手立てがあるとよいですか。

- ・高校の先生の参加を多くするためには、夏休み中に実施する。でも、負担がかからないようにすることは大切。
- ・研究授業というより、TTの形で実際に授業に入ってもらうまたは参加すると、実態が分かると思います。
- ・長期休暇に1時間程度の日程であれば可能だと思う。一度も参加したことがない先生の心理的な壁は大きいと思います。1回参加してしまえばなんてことはなくなると思います。